

基本理念は「安全」「快適」「やすらぎ」。

地域の皆さまと共に考え、共に協働し地域の福祉を支えてまいります！

災害派遣福祉チーム(山形 DWAT)のチーム員として部下を派遣して…

Q:今回部下を送り出して、いかがでしたか？

A:チーム員として参加した職員が、約一週間不在になることで他の現場の職員の負担は増えました。しかし、被災地支援のため協力しようと、リーダーが中心となり不在の間乗り切ってくれました。普段から職種にかかわらず連携している『チーム力』がいかされました。

Q:ご自身も東日本大震災の際に、福島県の被災地に支援に行かれました。その時の感想をおきかせください。

A:2014年3月に福島県南相馬市の特別養護老人ホームへ業務応援に行きました。震災から3年が経過していましたが、沿岸部は震災時を思わせる箇所が手つかずで残されており、震災当時テレビで見ていた現場を目の当たりにして恐怖を感じ、鳥肌が立ったことを覚えています。

Q:どのような支援活動をされたのですか？

A:私が行った特別養護老人ホームは沿岸部より離れており津波の被害はありませんでしたが、職員の方は身内などに被害をうけており、当時の恐怖感を抱えながら復興に向けた取組も行いながら仕事をされている状況でした。レクリエーションなどが十分に出来ていないようでしたので、食事や入浴介助の合間に歌や体操などを利用者さまと行い、職員の方の負担軽減と利用者さまの笑顔のために支援してきました。

Q:大変なことはありませんでしたか？

A:仮設住宅で2週間自炊生活だったため支援以外でも大変な面がありましたが、支援が終了し帰る際に利用者さまから「ありがとう」と言葉を頂き、こちらが元気をいただきました。

被災地支援は、今まで自分が当たり前と感じていたことが、そうではないと気付く良い経験になりました。ケアの仕方一つでも色々なやり方があることや、同じ東北でも方言は全く違い、レクリエーションで歌う歌の選曲一つでも、他県の利用者さんの心をつかむにはどうしたら良いか悩んだりしました。災害はない方が良いですが、支援が必要な災害が発生した場合は、多くの部下に支援の経験をしてほしいと思っています。

